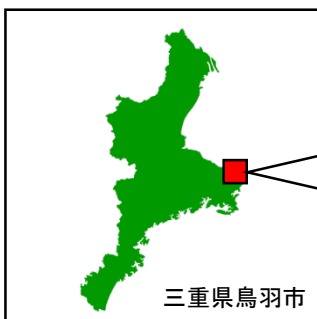


事例 1

漁港施設用地の有効活用(三重県小浜漁港)

- 小浜漁港が位置する鳥羽湾は、ワカメやクロノリを始めとした海藻類の一大生産地。鳥羽市水産研究所、漁協、地域住民等が連携した海藻種苗の投入等による藻場保全の取組が盛んな地域。
- 鳥羽市は、「藻類研究を核とした多分野連携による鳥羽市水産研究所機能強化計画」を策定し、内閣府の地方創生拠点整備交付金等を活用して、小浜漁港の用地に鳥羽市水産研究所を整備(令和2年3月竣工)。
- 研究所、漁協、県、大学等が連携して藻類研究を推進し、効率的で安定した海藻類の生産体制を構築することで、漁業者の所得や生産性向上等による水産業振興のほか、多分野連携による地域の活性化を図ることとしている。



三重県鳥羽市



小浜漁港

野積場用地

【鳥羽市水産研究所の概要】

- 鉄骨一部二階建て
- 床面積：727.5㎡
- 種苗棟：2トン水槽15基、30水槽
- 総工費：308,420千円
(うち国費154,210千円)

竣工した鳥羽市水産研究所



【財産処分手続き】

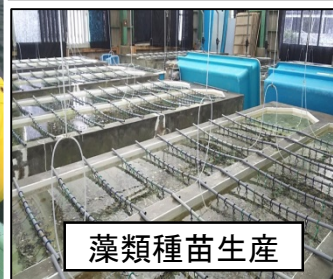
- 対象財産：野積場用地(1,127.8㎡)
注)補助目的に従った利用により10年を経過した長期利用財産
- 処分区分：目的外使用(補助金返還なし)
- 農林水産大臣への報告をもって承認



水産多面的機能発揮対策を活用した種苗投入の体験学習(菅島小学校)



ヒジキ養殖実証実験



藻類種苗生産

期待される効果

- 水産業振興：海藻類養殖の拡大による漁業者の所得向上、新たな加工品の開発
- 観光振興：海藻類をテーマとした交流人口の拡大
- 多分野連携：海藻類を活用した健康、美容商品の開発、教育の場の提供